



愛郷無限

2014年03月04日号 NO.456

写真提供:大田市

土屋館
どや
だて 通信

発行者:大曲・花火通り商店街
文責:辻

お問い合わせ:080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject: 価値の創造 気仙沼ニットイング

震災の後、2012年6月にコピーライターとして高名な糸井重里さんが主催する【ほぼ日刊イトイ新聞】において、震災支援のプロジェクトとして始まった【気仙沼ニットイング】。気仙沼の復興を応援し、港町・漁師（フィッシャーマン）のまち・気仙沼の新しいブランドを作るべく動き出しました。イギリス・アイルランドのアラン諸島生まれで世界にファンのある【アランセーター（フィッシャーマンズセーター）】をヒントに、編み物作家・デザイナーの三國万里子を先生として、編み物が得意な地元のお母さん達が集まって立ち上げ。代表として皆を率いるのはブータン初の日本人フェロー（首相側近）であった御手洗瑞子さん。企画後すぐに編み手のお母さんを連れてアラン諸島に飛び学んでいます。現在19人の地元のお母さん達が全て受注生産にて一着を着、最高の技術で編み上げています。全て手編みで、一着が10万円ほどとたいへん高価ながら、一生物の高品質とデザインで、先行予約は全て完売の人気ぶり。価値を作りあげながら、作り手も買い手も幸せになれる正に地域復興の先例であり、素晴らしい取組手法だと思います。一番感激したのは、ブランド作りポリシー。ホームページに記載されている会社の方針。地方発の産業に於いてとても参考になる素晴らしさなので以下転記します。

◆ 「誇り」を持って仕事をしていきたい

だれかに、よろこばれることが実感できるような仕事を、編んでいきたいと考えています。

◆ 「うれしさ」を伝えていきたい

編むことのできるうれしさが、着てくださる人に伝わって、何年も何代にも渡って愛されていくようなニット。そんな商品をデザインし、つくり、お届けしていきます。

◆ 気仙沼の「稼げる会社」になりたい

被災地であることが忘れられても、しっかりと暮らしの糧を得られる会社になりたい。その経営の基盤を気仙沼につくっていかうと考えています。

◆ 世界中のひとがお客さまに

日本だけでなく、世界中のひとに求められるものをつくっていく。東北の気仙沼 (Kesenuma) という地名が、素敵で高品質なニット商品を生み育てる場所として、世界に知られていきますように。

【ホームページ】

<http://www.knitting.co.jp>

◆ 代表である御手洗さんのブータン時代の体験記も出版されています。

こちらが秋田のような田舎にはとても参考になるものです。

【ブータン、これでいいのだ】

御手洗瑞子著 新潮社 (2012/2/29) ISBN-13: 978-4103320111 1,470円